学習院大学新聞

発行所
学習院大学新聞社
東京都豊島区目白
1丁目5番1号
電話(986)0221内線260
発行・編集責任者
平居利朗
定価共年間200円

二面　学長インタビュー
大学改革を見る
三面　反体制レポート
授業出席について
四面　スルース（探偵）
コラム（ヘバンギャルド）他

第一回参団総開かれる

大学祭

学生自治の推進めざす

明確なビジョン持たぬ実行委

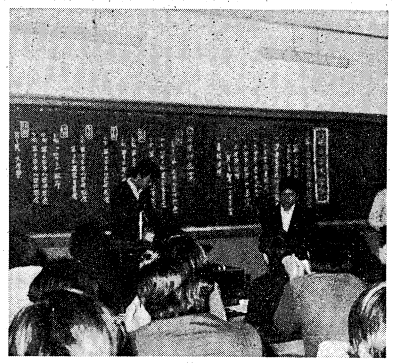
五月八日、例月は学生部主催の参加を得て、大学祭実行委員会が開かれた。今回は学生自治を力強く推進するため、いっもより一カ月も早いスタートである。目指しとして十一月一日から五日までの大学祭が予定されている。十三日には第一回運営委員会が開かれ、学生ゲームの出席確認、具体的な活動などが話された。

五月八日、第一回目の大学祭参加団体総会が開かれ、昨年に比べると一カ月早いスタートである。

現在の学生自治会は、大学祭実行委員会と呼ばれ、大学祭のための組織であるが、運営方法などをめぐって学生間に対立があり、昨年は大学祭が開かれなかったことは記憶に新しい。

今回の大学祭実行委員会は、学生自治会の復活を目指すものであり、大学祭の運営方法などをめぐって、学生間に対立があり、昨年は大学祭が開かれなかったことは記憶に新しい。

今回の大学祭実行委員会は、学生自治会の復活を目指すものであり、大学祭の運営方法などをめぐって、学生間に対立があり、昨年は大学祭が開かれなかったことは記憶に新しい。



第一回参加団体総会開かる＝西1ノ107

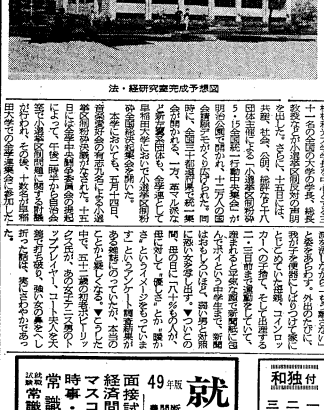
11・3闘争公判

第十六回公判 前学長も出廷か

裁判長転任で長期化

設計面での困難克服

法・経研究室建設進む



法・経研究室完成予想図

就職戦線に大異変

青田買い自粛の動き

小選挙区制法案

本学でも反対闘争

院内大会

幕開け

方位角

新聞、その"硬構造"

明窓浄机
明窓浄机
就職試験 三〇〇〇題
新流行語と頻出語句
流動
日本の業界紙
日本の業界紙
学習院大学新聞社
伝統と権威ある青林の優良教材
青林講義シリーズ
同学社版 新修ドイツ語辞典
時事経済フランス語
福井芳男著 フランス語で歌いましょう
明解ドイツ語基礎
藤田ドイツ語入門
フランス文法入門
フランス語会話
常識パズル
英語問題
英語常識
面接試験と適性検査
経済問題のダイジェスト
マスコミ・オールー試験問題
時事・常識問題のダイジェスト
常識ハンドブック
英語常識
青林書院新社
株式会社 青林書院新社
東京都文京区西片1－8－17 振替東京16920
法文社
東京都港区元赤坂1－7

—学長インタビュー—
将来研にそった運営を

このたび、近藤正夫氏の後を受けて、児玉幸多氏が新学長に就任しました。

そこで新学長のこれからの大学運営方針、教育に対しての考え方学生に望んでいることなどをインタビューし、特に、学長が将来研究委員会の委員長を兼任しているということから、将来研最終報告に焦点を合わせてみました。（きき手　本社編集主幹）

学生自治は代議制で

記者　まず先生の学生時代と比較して現在の学生をどう思いますか。

学長　今の学生は勉強への意欲があまりありませんね。僕達の時代は真剣そのもので、質問もどんどんしました。なにしろ積極的だったですね。少なくとも今の学生より。

記者　そうですね。勉強面においても生活面においても、今の学生は消極的ですね。それは学生の自治問題に、はっきり現われていると思うんですけれども、先生は学生の自治についてどう思いますか。

学長　一つの学部に学生が千何百人いるわけで、それを一つに集めるのは物理的に不可能ではないですか。そこで考えたのですが、十人か二十人ぐらいのグループを作り、そこから代表者を出して討議する代議制をとって行なったらどうでしょうか。

記者　現在、学習院大学において、自治会があるセクトに、にぎられていると見る向きがありますがどうでしょうか。

学長　それはどこの大学でも問題になっていますね。大部分の学生の無関心から派生しているのではないですか。無関心派はいつの世にも居て、選挙などの時も、死票を投じ、自分の意志をはっきりさせないんですね。それではどうしようもないんで、良くても悪くてもその時の判断を持ち、ある程度自己主張を行なわなければ、真の自治はできないんですよ。

記者　次に大学と学生自治の関係について聞きたいんですけれども、現在、学生自治会は輔仁会の下にありますね。実際私達がみると、輔仁会が自治会の上におしかぶさっている感じがするんです。この二つは分けるべきではないでしょうか。

学長　質問ですが確かに、図に書くとそうなります。だけども実際はほとんど独立しているのではないですか。だからそんなに気にする必要はないんじゃないかな。どうしても気になるなら、切り離せばいい。しかし実際は、色々な問題があってなかなか切り離せないのが現状なんですよ。

記者　なるほど。

学長　どもかく学生にもっと積極的になってほしいですね。自分たちの自治なんですから。学校側だけが考えるのではなく、学生自身がどんな形態が一番良いのか。また、どうしたらそれが得られるのかを考えるべきですね。考える気力がないから、良いも悪いもわからない。当然発言もできない。

記者　しかし、当局が常に学生を無視するようなことも原因ではありませんか。たとえ積極的に何かの要求を提出しても、当局がいつも沈黙では。

学長　学生は団交という形態で一方的な意志表示をしてくるわけで、反対側の意見を全然きかない。それでは話し合っても仕方ないと思うんです。私としては話し合いができればしたいんです。でも、どこかの大学で見られたように、数人の学生が学長を脅迫したり、つるしあげたりするようでは。

記者　それについては、近藤先生が学長だった時に、学生との対話集会なんかを開いていましたが先生は学生との対話をどうするつもりですか。

学長　正常な形で対話できれば、いくらでも生徒と話したいんですよ。教師と学生が自由に話せるのは教育の場として最高ですからね。あなたたちも、教室でもどこでもいいんですよ。教育というのは、教師が色々な形で学生に浸透していくことが一番大切ですからね。

記者　自主性のないのが痛切に感じられます。

学長　ええ、もっと反応を示してほしいですね。少なくと一をいったら一を答えてくれるように教室の活気は学生の反響があるかどうかできまるんですよ。今のままでは学生と教師の相互で自滅しているんですね。

本社記者と対談する学長

学生不在の改革案

記者　次に先生が会長をなさっていた将来研では色々改革案を出していますが、そのことについて聞きたいと思います。まず、将来研報告と似ている筑波大学法案について。

学長　将来研と筑波大学法案では、学部制の廃止など良く似た点があります。問題点をあげると、一つには管理機構の面です。副学長に学外者を任命したり、学外者だけでなる「参与会」を設けたりしています。これまでの「大学の自治」を根本的に揺るがすようになりますよ。政治的な介入が、どうどうと大学内に、まかり通るんですからね。治外法権的な形で大学の精神をつらぬくべきじゃないかな。

記者　そうですね。

学長　もう一つの問題として現存する東京教育大学をつぶしてしまうことです。別の大学を実験大学として作り、良いか悪いかをためしてみるなら、一つの方法なんですけれど。今存在する大学をつぶして、規模の大きな金のかかることをする必要があるかは問題ですね。

記者　話は全然違うんですけれども、将来研で少数精鋭・一貫性教育に触れていますね。まず、少数精鋭についてですが、資料などを調べて行くと、学習院大学では学生の人数が少ないと同時に教員も少ないんですね。それでは真の少数精鋭ではないんじゃないですか。国立などと比べれば雲泥の差ですが。

学長　国立と私立では確かに違います。でも私立の中では学習院は少ない方ではないですか。これからも教員数を増していこうとは思っているんですが、財政面でちょっと無理なんですよ。でもこれは深く考える必要がありますね。

記者　次に一貫性教育についてですけれども、下から来た人は途中から来た人とは色々な点で違っています。先生はどう思いますか。

学長　一貫性教育は初等科から大学を通じて、卒業する時に学習院の目標を設け、それに合った人間を作ることなんです。下からきた人は他の人の様にセレクトされていないんですけれども、他の人が試験勉強をしている時に何か他の勉強をする時間があるという利点はあるわけです。でも学習院全体の問題ですから、はっきりさせる必要がありますね。しかし、今のところ下からきた人と途中から入った人との学力の差はみられません。まあ入試にわずらわされないで、人生なりを考えることができるところが特徴の要因ではあるでしょうね。しかしこれらの点はこれからも考えていかなければならないでしょう。

記者　そうですね。話しは飛んでしまうんですが、一つ気になることがあるんです。将来研に学生の意志がもりこまれているのかどうかということです。

学長　もりこまれていないでしょうね。若干の知識を得ているだけの学生の意志をもり込むのは無理ですよ。ただカリキュラの作り方ぐらいは学生の意見を聞く機関を持ちたいですね。

研究者養成が目的

記者　先生は大学の教育管理、学生管理などの点をどう運営して行くつもりですか。

学長　大学の組織自体は仲々むずかしくて、右から左へとすぐ移してしまうことはできないんですよ。教員については、やはりいい人がほしいですね。そしていい研究をし、発表していってほしいですね。そのためには良い施設をつくって、それなりの待遇をしなくてはならないでしょう。どのような形で実現して行くかはなかなかむずかしいですけれどね。さいわい学習院はけっこういい先生がいるし、他の私立大に比べて、そんなに悪い方じゃないですよ。

記者　そうですか。学生については、どうでしょうか。

学長　やはりいい学生がほしいですね。そのためには魅力ある大学にしなくてはならないでしょう。ただ学習院というと古いイメージがあるからそのイメージをこわしたいですね。これが先決だと思います。それと同時に、教育についても画一的な人間ばかりを作っていかないで特殊な人間を作っていきたいですね。つまり、研究者を数多く作ることです。そのために、入試制度やカリキュラムを考え直さなくてはならないでしょう。

学習院広報で兵頭さん（経済学部教授）がおっしゃっているんですけれども、学習院大学の九〇%は享楽型か教養型だっていうんですね。確かだと思います。会社用の人間を作るのではなくて、もう少し高い所に目標をおきたいですね。

記者　こういうことを踏えて考えるとき、先生のこれから作って行こうとする〝大学の理念〟をききたいんですけれど。

学長　良い環境を作ることだと思います。そうなれば教員もよい研究ができ、またそれが学生に反映するでしょうし。また大学は、ただ学生が本だけでなく、社会などに対して疑問を持って、その疑問を解こうとする場であってほしいですね。疑問を持たなければ何も解決できない。だから僕は学生にいかに自分の知識がないかを知らせることが教育だと思います。大学とはその教育を行なう場ではないですかね。

記者　そうですか。では最後にお聞きしたいんですが、将来研の委員長として、また大学長としてこれからの大学運営を将来研に乗っ取ってやっていくおつもりですか。

学長　そうです。将来研を一つの基礎として、学習院大学を管理運営していこうと思います。とにかく今の大学運営では先が見えています。もちろん将来研の中にも無理なものがあります。でも、とにかくそれを見本としてやっていきたいですね。

記者　そうですか。よくわかりました。私たちも将来研に沿った大学改革をこれから見ていきたいと思います。

今日は、おいそがしいところをどうもありがとうございました。

—将来研—
危まれる学生自治
今後は自らの責任で
大学改革案を見る　（1）

現在の停滞する大学教育にメスを入れるべくして、数多くの大学改革がさけばれてきたが、ようやく今国会にそれが上呈された。「筑波大学設置法案」である。これはほぼ十年の歴史的経過をたどって今日に至っている。

六三年に研究学園都市建設地を筑波山麓に閣議で決定して以来、六九年の中教審答申（中間報告）を経、今年の二月、国会提出となったものである。

この法案は、学部・学科の廃止、大学院教育の重視、社会への大学開放、複数の副学長の設置、「参与会」なる第三者の大学教育への介入、などの特色を持っている。

一方、学習院大学においても「筑波大学設置法案」とほぼ同時期に、また内容もある程度似通った点を持つ、「将来研究最終報告」が出された。

この報告は、六九年に設立された将来研究委員会（現大学長　児玉幸多委員長）が、学長の諮問に応じて学習院大学の進路を検討した結論である。七〇年に中間報告を行ない、七二年にこの最終報告が出されたのであった。

内容は、大学一般、財政、機構、学生組織、図書館等にまで及んでいる。

この二つの大学改革案は、いづれも進歩的な面も多少みられるが、全体的には、教育の反動化を露呈しているのではないだろうか。特に「筑波大学設置法案」は、文化人を二分化するほど社会問題化している。

学習院の「将来研究最終報告」は、委員長の児玉氏が学長になった現在、新たな一面を向えている。

このように現実化されつつある二つの大学改革案を、批判的に検討しなくてはならない。その為我社では、今号から三回に分けて、「大学改革」を考えていってみることにした。今号は、将来研を、来号には筑波法案、最終号に両者の関係をのべていってみる。

総論的な問題点

上に書いた通り、今回は我々に最も関係のある大学改革案〝将来研最終報告書〟について述べることにする。

まず、報告書に沿って全般的に問題をあげると

○「大学は教育と研究の場である」としているが、教育、研究の内容を明確に示していない。つまり〝大学とは何か〟という本質的な規定を全く抜きにして、大学の機能・側面について述べている。これは最も大切な問題であるために、明確にしてほしいものである。

○教師は学生に学問を教えるだけという昔ながらの教育観が今だに固守され、教師の研究と教育とがまったく別の形になっている。これは、現在と同様に、勉強をしない学生と授業でただ淡々と話すだけの教師の関係が今後も続くことを意味している。教師と学生が一体となり研究に臨み、それが教育につながることが真の教育のあり方であるはずだ。今後は新しい教育観が確立されることを期待したい。また、教育とは学問をするだけでなく、政治、社会勉強も教育であるということを認識する必要があるであろう。

○大学と社会を対比し、社会の要請による＜大学の多様化＞を目ざしたことは評価できる。しかし非常に漠然とした流動的な社会の中で社会が何を要求してくるかわからない。そうなれば、大学が目先の要請に流され、一貫性のある大学教育をなすことはなかなかむずかしいのではないであろうか。

次に具体的に問題をあげると

○財政面について

去年、今年と二年連続の値上げがなされた。当局は黒字の線を発表しているにもかかわらず大幅な値上げである。〝国家による国庫補助金の増額が着々となされている〟など書かれていたが、この補助によって、国家が私大の統制を行ないやすくなることを認識しているのであろうか。また、一〇〇億を寄付金を目標として運営を有利にしようとしている。国庫補助金といい、寄付金といい、積極的な財政対策がなされず、他力本願である。今後、当局及び全学生による積極的な財政対策の論議がなされるべきであろう。

○一貫性教育について

それ自体、効をなしている面となしていない面の両面があるので是非は問えない。が、去年の大学祭ポルノ事件に発覚した護光会のように、一歩まちがうと、とんでもない方向に向かってしまうことを、大学はよく認識してほしいものだ。

○少数精鋭主義について

我大学は確かに学生数は少ない。しかし、それと共に教師数も少ない。例をとってみると、我大学の教師一人あたりの学生数三四・一人、慶応二六・五人、上智一七・九人、そして早稲田でさえ四一・五人となっている。これでは我大学は少数精鋭とはいえないのではないであろうか。今後は財政の許すかぎり、教師数をふやすなり学生数をへらすなりしてほしいものだ。

学生組織

次に非常に問題が多く、また、我々学生が最も考えなくてはならない学生組織について述べてみよう。まず、目につくのは、入学時に大学と学生が明文化された学習院大の教育理念、教育方針、学生の義務と権利についての教育契約を結ぶことを提案していることである。もちろん、それに同意しない者は入学できないわけである。

しかし、入学時にふるいにかけることは、大学を問題なく運営していこうとする大学の安易な教育方針が如実に現われている。これは「学生を大学の基本構成員とみなす」と断言しているにもかかわらず「学生は＜教えられる者＞であり、大学の＜通過者＞であるから、教課課程の最終的決定に参加することは疑問の余地が残る」「学校のコントロール下にないサークルに対しては、大学は干渉しないかわりに、責任を持たない」などと言っている点からもうかがえよう。

また、学生は入学後、その教育契約書〝憲章〟の元で放置されることになる。それは、今の状態と全く同じで「学生の勉強・生活面への非積極的な態度」「当局のただ教えるだけの態度」「学生の諸要求に対する当局の沈黙」が今後も続くことを意味している。

学生は当然、大学運営上においても、学問上においても知識は少ない。だからといって、学内の諸問題について学生参加をさせないという論理はなり立たない。なぜなら、教師は教師なりに、その知識で、学生は学生なりに理屈にあわないところをどんどん反対する態度で、両者なりに立場を考慮しながら、学内の諸問題を決定して行くことが必要だからである。そこにおいて〝憲章〟をたてにとる大学当局の態度はあってはならない。

そこで、学生の意見を当局に反映するために必要になってくる機関が学生自治会である。報告書では「グループをつくり、その代表者が集まり討論する」〝代議制〟の自治会を想定している。しかし学生自治の本質的規定はなされていず、自治会の拘束力、任務などの機能について述べただけである。また、政治的、イデオロギー的活動については厳しく自己抑制し、その活動を教育研究活動、学生自治に関するものに限定すべきだとしている。

現在の学習院大また他大学のように〝セクトあっての自治会〟〝政治的・イデオロギー的活動中心の自治会〟には当然、疑問の余地がある。現にその問題は様々な形で論議がなされてきた。が、選挙権を持ちながら政治、社会問題にほとんど関心を持たない学生がほとんどを占めている大学において、その学生を導いて行く役割を果たすため、自治会は政治的・イデオロギー的活動をせざるをえないのではないであろうか。しかしそれ以上にわれわれが考えなくてはならないことは、学生と当局の意識であり、両者の当面の課題は警察力をはさんだ対立を打開することであろう。学生運動と警察力―この二つは永久に合い入れない性格のものである。にもかかわらず、両者の間に警察力が介入してくることは、問題の本質的解決を妨害する一つの要素になるのは当然である。立場の違う両者がかみあわないのは当然で両者にはそれなりの言い分もあり、それは両者なりに当然のことである。しかし先にも書いたように警察力をはさんでいるところに現在の否定的状態が生まれている。もちろん、それ以外にも様々な理由はあるが。

◇　◇　◇

どこの大学でも言えることだが学習院大においては、否定的状態がマンネリ化し、最悪の状態に落ちこんでいる。その様な中において、去年の大学祭ポルノ事件が起きた。これによって、大学祭の本質をさぐるところから端を発し、学生運動―自治会のあり方を通して、学生の真のあり方へと論議が発展することを期待したのは私だけではないであろう。しかし、それも〝学生側による一方通行〟〝当局の沈黙〟と従来の繰り返しで終わってしまった。そして現在自治会は次の課題にとりくんでいる。ここには、両者の致命的関係を見ることができる。この関係をまず解決しなくては、真の学生自治会は得られないであろう。

この学生不在の将来研そのものが示しているように、現在、学生は大学側から無視されている。それでは、大学の必要性は大学人及び社会による要請でしかなくなる。それを我々学生が見過ごしていては、大学側のエゴイズムによる大学運営・国家による中教審答申などに沿った押しつけ管理しかされない。それを打開するためには大学側はもちろんのこと、我々自身も自らの責任において、本質的なところに立ちもどり、考え直す必要があるであろう。それによって真の学生自治―真の大学が得られるはずである。

馬耳東風

学生のプチ・ブル性
金で時間を買った贅沢者

週四十時間もの講義に出席していたが、それでも何か物たりなさを感じ、そのことを友人に話したら「活きてる頭を、死んだ講義で封じ込めちゃ助からない。外へ出て風を入れるさ。」と言われ、翌日から講義を平分に減らしたのは、有名な「三四郎」君である。

いわゆる五月病という特殊な病（？）が新入生を煩悶させるということは、明治時代の学生にも今の学生にも共通の問題である。「明治は遠くなりにけり」は学生には通用しそうもない。

五月病に犯された学生の多くは大学自体に幻滅、あるいは疑問を感じている。その幻滅なり疑問なりは確かに当を得ているというのは、純粋なる新入生は「大学とは何か」という理念を追求しているが、現実の大学と理念上の大学とではキャップが大き過ぎる。そこから生ずる現実の大学に対する否定的認識は当然である。こう断言できるのは、今まで大学が学生を裏切り過ぎたという事に由来する。「学問の府」という美名の基に大学運営の全てを正当化し、さらに大学自身でも追求しなければならない〝大学理念〟の構築を捨て去った大学が何と多いことか！

このような現状の大学はプチ壊してしまうか、そのような大学の学生たることを止めてしまうより他、五月病を治療する途はない。プチ壊すことも大学を止めることもできない学生がこの病を治療しようとするなら、その途は何か？それは大学に対する価値感を変えることである。大学は高尚な〝理念〟なり何なりを与えてくれるところであるという幻想を捨て去り、現実の大学と学生の関係とを考えることと、このことによってのみ解決できるような気がする。

大学は学生から授業料という名目でお金を取り、そのことによって生存している。学生は授業料という名目でお金を払い〝時間〟を買っている。大学と学生の間には一種のGIVE AND TAKEの関係が成り立っている。こう考えると大学に失望することも感激することもなくなる。なぜなら、お金で買った自分の時間なのであるから恋愛したり、勉強したり、クラブに熱中したり、学生結婚したり、その他様々な時間の使い道があるだろう。時間の使い方によっては、失望したり、感謝したりするであろう。しかし、それは大学自体に対してではなくこういうことができる制度であり、プチ・ブル学生を支える家庭の財力に対してである。

所詮学生はどうあがいても、プチ・ブル以上でも以下でもなくプチ・ブルが手足をつけて歩いているような存在である。

今の大学は、高尚な学問や理念を追求する場ではなく、プチ・ブルと結託した企業体の何物でもない。このように考えるのは、三年間もプチ・ブルに甘んじた者の開き直りであろうか？

デスクの片隅

一年生が入学してすでに一ヵ月が経とうとしている現在、授業やクラブはやっと軌道に乗ってきたところでしょう。

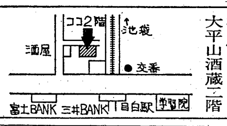
我社においても十四名の新入社員を迎へ、今まで廃止していた部制を引くなどして、新聞活動が充実してきました。今年の新入生は例年になく、始めから記事を書く者が多く、今後期待できる気がします。以下、新入社員を紹介します。今まで通りみなさんの良きアドバイスをお願い致します。

伊藤　茂（国文）
風間　木の実（英文）
久保　義治（化学）
黒沢　由美子（英文）
桑原　葉子（短大・文化史）
斉藤　深雪（経済）
杉山　洋子（短大・英文）
近山　勢津子（短大・国文）
津村　京子（英文）
花田　尚史（経済）
古谷　伸二（仏文）
室　幸子（短大・国文）
山口　滋正（政治）
山梨　桂子（短大・文化史）

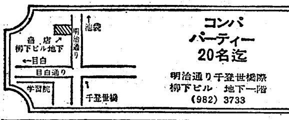
なお、次の者が退社しました。

関家　敬夫（経済2）

新規開店　麻雀クラブ　ニューめじろ
気軽に行ける明るいムードの店
開店　毎日午前十一時
料金　一般　八十円　学割　六十円
電話（九五〇）二九二八
場所　大平山酒蔵二階



新規開店　準和風　ひょうたん
ランチタイム（定食）午前十一時半より午後二時まで　二百円～三百円
一品料理　百五十円より
ジンギスカン　いろり焼他
ビール一九〇円
コンパ　パーティー　20名迄
明治通り千登世橋際　柳下ビル　地下一階
（982）3733



午前10時から開店
高級サロン風　麻雀　ヒカリ
TEL（953）0789
目白駅前　三井銀行横通（山手線崖上）
（元　中川三郎ダンス跡）

学習院指定　羊屋
常時奏々会にも羊屋店がございます
学習院学生服　紳士服　洋品雑貨　各種取り揃えております
TEL（九五二）六〇四七　一〇七一　（九五三）〇七七三

パーラー＆スナック　寿楽
喫茶　軽食　パーラー
喫茶953－1032，0775
果物953－3233

国際学生証（I.Dカード）

あと何年間学生ですか？

卒業してからでは手遅れです

最近、卒業してから発行を依頼される人が多いようです。いくら我々でもそれではどうする事もできません。在学中にフルに使って下さい。これさえあれば世界のスチューデント・トラベル・システムはあなたのものです。スチューデント・フライト、スチューデント・トレイン、スチューデント・ホステル……。

詳細はJISU〔ジス〕にお問いあわせ下さい。

Japan International Student Union
日本国際学生連合

TOKYO：東京都渋谷区東2－23－8 ふじビル5階　TEL(03) 407－4553 〒150
OSAKA：大阪市北区神山町13 松栄ビル3階　TEL(06) 312－3634 〒530
SENDAI：仙台市南鍛冶町122 東北音楽学校ビル502号室　TEL(0222)66－4278 〒980
FUKUOKA：福岡市中央区舞鶴3－3－20　TEL(092) 77－1425 〒810
PARIS：JISU-Europe,Paris,88Bld.,Saint-Michel,Paris 6e　TEL 326－51－93 FRANCE

学生にとって授業出席とは

ただ単位をとるため? 教育の原点の再検討を

「代返たのむ!うまくやってくれよ」「悪いけど代筆お願い!じゃあね」などという声がキャンパスのあちこちからきこえてくる。代返、代筆をしてまで出席する価値があるのだろうか。無関心ではいられない出欠問題。学生にインタビューをして、その結果は。

問われる教育内容

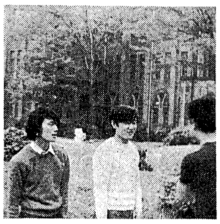
どの様に出席をとっているか―という問に対して三百人、五百人の大教室ではほとんど出席をとらないという答が多く返ってきた。とれないというのが現実ではあるが、そこから近年問題になり始めている大学のマンモス化が浮かびあがってくる。早稲田大学、日本大学、明治大学、慶応大学など数をあげればきりのないほど、生徒数一万人を越すマンモス大学がある。我々の学習院大学でも授業での人数の多さは問題になっている。

さて、少し大教室の授業風景を想像してもらおう。教室の戸を開けると遥か前の方に教卓が見える。もし後の方に席をとればどうだろう。教授が現われると、マイクから声がながれる。よく聞こえない黒板に書かれた字も、遠いかなたの出来事の様にかすんでいる。隣りの席では、友達同志だろう、世間話に花を咲かせだした。全くやる気をなくしてしまうのは、しかたのない様な気もする。そんななかで、出席をとらないために、授業をさぼるという現状も起ってくる中には「どんどんさぼってくれ」という声もあった。それでなくても教授の声も聞こえないところ、やる気のないやつはやめて、もっと静かで向学心に燃えた人だけでじっくりやりたいというのだろう

またあるところでこんな話も聞いた。もし学生全部がまじめに授業に出ると、教室に学生が入りきれなくなってしまうというのだ。学生諸君はこの話をどう考えるか

もちろん学生は勉強するために大学に来て、また大学も学生に勉強させるためにある。それなのにこの現実はどうであろう。学校側では、すでにはじめから、学生が授業に出ないことを予測しているのだろうか。学校側がそんな態度でいいのだろうか。もちろん、財政面で、教室が少ない、キャンパス他が狭いなどあるが……

現実では、学生全部が授業に出るはずもないし、それでなくても学年始めにはいっぱいの教室でも一ヵ月近くたってしまうと、ほとんどガランとなってしまうのはわかっている。しかし、学校側も、学生も、その現実をそのままにしていいのだろうか。学校側はどうして学生が出なくなるのか授業の内容を再検討すべきだ。授業というものは、一方的な"おしえ"に終るはずのものではないし、学生と教授二者の交流が必要なはずだ。しかし、現実そこには、流れは滞ってしまっている。教授はスイッチを入れると声が出てくる"ティーチングマシーン"ではないはずだ。もっと学生に興味を持たせるおしえてやる式でない、「あの教授の授業だけはどうしても出たい」と学生にいわせるようにと考えてはどうだろうか。



「授業出る?」「おもしろくないから出ないよ。」

大学は自由な学問の場

大学とは、本当に勉強したい人だけが行く場のはずである。しかし、そんな考えはもう幻想になりつつある。なにしろ、大学数は全国に約四百。同世代の四人に一人は大学生である。猫も杓子も大学へ。大学を出なくちゃ就職もできないし、お嫁にも行けない―。そんなわけだから、学問の真の意味は失われてしまって、必要な単位だけとって卒業しようとする学生がいても不思議ではない。

必要な単位―それには出欠席が大きくものを言う科目がある。たとえば、語学では、1/3休むと落第と決まっている。それに、毎回出欠をとる。「出欠をとって、強制的に来させてあてるのは、学生への救済手段の一つである。できない学生はどんどん落第させたいが、そうするとたまってしまってあとがつかえる」(英文科の教授談)だから、ちょっとぐらい成績が悪くても出席していれば、可にして上にあげるということになる。「出席していれば優とまではいかなくても、とにかく単位がもらえる」こういう考え方が学生に蔓延しているようだ。一般教養の時間でも、時々出欠をとる。この"時々"の時になると、前もって情報が流れるためか、学生がドッと出てきて、いつもガランとしている教室からあふれんばかりである。しかし、この時々の出欠が一体何になっているのだろうか。

そんなに、出欠にこだわらなくてはならないのだろうか。もっと自分の好きな授業に出るとか、あるいは自分のしたいことをした方が、ずっと有効な時間の使い方ではないだろうか。出欠をとるからと、あまり出たくもない授業に足を運ぶ。そして、その出欠をとってしまえば、あとはボーッとしたり、おしゃべりをしたりして時間をつぶす。

授業は与えられるものではない。学生の側から積極的につかみとるものである。こちらから取捨選択して自主的につかみとってこそ、「大学は自由な学問の場」という言葉が生きてくる。多様な意見批判が公正に出され、切磋琢磨されてこそはじめて大学の役割が果たされる。

現在、大学のあり方が、各方面で問われている。私達は表面的ではあるが、出席問題について調査した。それからも混乱した大学の姿が浮彫りにされた。いまや、教育の原点の再検討が要請されているときではないだろうか。

表1・2は都内の大学生のうち早稲田、池袋、神田地区の学生を無作為に選び、二項目の質問にしぼって解答を集計したもの。

表1

どの科目に出席するか	
出席をとる科目	一一・八%
ほとんどの科目	六二・七%
好きな科目	二五・五%

右の表を見ると、新学期が始まったばかりのせいか、大部分の学生がほとんどの授業に出席している。

一年生は、まだ学校に入りたてで好奇心も手伝ってか、学生のほとんどは全部の授業に出席しているようだ。青山学院大学一年のAさんは、「まだ今のところは休まず出席しています。退屈な授業もありますが、出席しないと何となく心配なので」とフレッシュな笑顔で答えてくれた。

二年生以上の学生は、出欠をとるとらないと無関係に自分の必要とする科目、興味のある科目だけに出席しているようだ。立教大学三年のB君は「まず好きな科目に次に必要な科目、必修科目の順に出席をしている」と言っていた。

また、独協大学四年のC君は「今までは出欠をとるとらないということにこだわらずに、関心をもっている授業だけに出ていたけど、やっぱり卒業をひかえた今は出欠席にこだわらざるを得なくなってきた」と現実の厳しさをうかがわせた口調で話していた。

このように、自分の自主性に任せて授業に出席しているという過半数の学生とは反対に、出欠をとる授業だけに出席するという学生もある。

そのような学生の話によると、「出席しても、講義はあまり聞いていないし、身がはいらない」ということだ。出席率がよければ、テストの成績が悪くても単位を与える学校側にも少し問題はありそうだ。

また、ほとんどの授業に出席している学生が、実際どれほどのやる気を持って授業に臨んでいるかは疑問だ。そこに何らかの抑圧が加わっているのでは・・・

表2

大学の授業で出席をとる必要がありますか。	
とる必要がない	六三%
とる必要がある	三〇%
どちらでもよい	四%
仕方がない	三%

右の表によると「出欠をとる必要がない」と答えた学生が、全体の六割を占めている。「とる必要がない」という解答に共通している理由は分けると、やる気のある人だけが講義に出ればよい、やる気のない人が来るとやる気のある人に迷惑である―「自分のために勉強に来ているのだし、本人が関心を持っている科目なら自主的に出席するから」の二つがあった。「やる気のない人が来ると迷惑である」確かに言えることである。勉強しようという意欲なしに授業に出るのだから当然勉強以外のこと―例えば、一番多い例がおしゃべりなどをして時間をつぶそうとして、一生懸命勉強している人に雑音を提供することになる。

しかし、こんな態度はどうだろうか。「出席をとるべきだ」という解答の理由をあげてみると「出席をとらないと学校に来ない。出ることによって安心感を得る」(平常点かせぎ)「一種の刺激剤となる」「講義は教授と学生の接触の場である」等があった。

「出席をとることに反対」等と言っていても、現実には代返や代筆は大はやりなのである。いろいろ理由を言ってもやはり出席しているという安心感を得たい人が大部分を占めているのではないだろうか。なお、「出席をふやすことが一種の楽しみです。出席をとることに勉強意欲をみいだしています」という人もいた。

反体制レポート

あらゆる束縛からの解放を!

山谷労働者の闘いに注目せよ

警察、手配師、業者の弾圧に徹底的に反撃

市民社会から抑圧され続けている下層地域、山谷現地をこのほど調査し、表面的ではあるが、労働者の意識的な闘争が行なわれている実態や労働、生活状態、その背景となる歴史的な推移を報告としてここに掲載する。ならびに労働者の闘いに注目されんことを提起する。

不断に抑圧、搾取されている労働者たち(七二年十二月末、山谷玉姫公園)

労働者の実態と背景

東京都台東区清川、東浅草、日本堤、荒川区南千住一帯は通称"山谷(さんや)"と呼ばれる日雇い労働者の集住地域である。

労働者は一泊二百~五百円のドヤに住み、港湾荷役、建築、地下工事等の肉体労働で、日給千五百ないし三千五百円の賃金を得るが食費、飲酒、ドヤ代で使い果たしてしまう。「土方殺すにゃ、雨の三日も降ればいい」と言われるように、雨や他の理由で仕事にアブれてドヤ代もなくなった労働者は公園、境内などに野宿する。夏はいいが冬になるとそのまま凍死である。寒さを防ぐために、なけなしの金を残らずはたいて、コップ酒を飲み、ごろりと横になるともう二度と起きては来ない。

新日鉄、三菱重工をはじめとする日本産業界の主要な独占資本とその系列化にある下請、孫請業者に労働者は臨時工として雇われ、京浜・京葉工業地帯の"労働力市場"において最下層に位置させられている。

資本にとって"使い捨て"となる日雇い労働者には本工労働者に与えられている、労災、失保の最低的な保障すら、皆無もしくは不十分である。最も危険な重労働をしいられ、死と背中合わせにある彼らにこそ十分な保障が与えられるべきである。

山谷の労働者はその多くが北海道、東北の農村出身者や倒産中小企業の労働者が定住するようになったものであり、さらに在日朝鮮人も存在し、被差別部落としての性質も合わせて持っている。

山谷のような下層地域は資本階級自身が、恩恵を受ける資本主義の実体を支える基幹産業を発展させるために、日雇い労働者(労働力商品であり、それ故に流動的)を巧妙に全国の"経済基地"(大阪―西成区あいりん地区=釜ケ崎、東京―山谷、広島、神戸、横浜など)にプールし、操作、移動させることによって成立した。

日本は第二次世界大戦後、資本主義の政治、軍事的危機によるアメリカのテコ入れ、朝鮮動乱軍需で復興し、高度経済成長政策を中心に発展してきた。だが六七年の金プール制の廃止に始まった資本主義の危機は、七一年のドルショックで頂点に達し、日本も動揺、必死の延命策(諸物価値上げ)で"世界経済戦争"を戦ってきた。

山谷、釜ケ崎などは日本資本主義を最下層から支える安価な労働者供給地=国内植民地としての様相を日本の発展に見合って呈していったのである。利用されるときは馬車馬のように、こき使われ犠牲になるときは虫ケラのように殺されてきたのである。

組織された反撃と意義

ひどい労働、生活状態に加えて労働者は悪質手配師、業者の弾圧も受けていた。手配師は無権利の労働者から高額のピンはねを行ない、甘い汁を吸う。労働者が抗議すると、暴力団と通じている手配師は「てめえら、ガタガタぬかすんじゃねえ」と恫喝し労働者の訴えを圧殺する。

業者は業者で労働者が指示通り現場へ行くと片付けの条件で行ったものが側溝掘りであったり、条件違反なのに平然と「どうなんだお前ら、やる気あんのか、ねえのか」とこれまた恫喝し、労働者を弾圧する。

組織された反撃が開始されるまで労働者は個別的に「金を約束通り払え」等の労働争議を起こしていたが、総体として闘争力がバラバラに分断していたため、大衆的な盛上りを見せることはなかった。

また大衆的にも釜ケ崎、山谷には何度も暴動が起こっては消え、起こっては消えした。六十年安保闘争以降、階級闘争が一定程度沈滞しているときである。

搾取され、差別された下層労働者の情況に規定され、反戦、労働組合運動などとは違った不正そのものに対する闘争であるから、下層労働者が性質的に持っている社会的積極性、ラジカル性が媒介となって数百、数千の労働者が自然発生的に暴動を起こしてきたのであった。新左翼諸派が語る10・8羽田闘争以前にすでに激烈な階級闘争が山谷、釜ケ崎において展開されていたのである。だが自然発生性故に、持続せず大衆的広がりも克ち取りえず、部分的叛乱の枠内で警察権力に鎮圧された。

個別的な分断した闘争、自然発生的暴動を総括、止揚する形で七二年六月、山谷の先進的労働者によって悪質業者追放、現場闘争委員会ができた。これは一般の労働組合運動で臨時工労組に対して、本工労組が桎梏になるように、すでに存在していた東日労、全港湾山谷分会が一部の指導者により、労働者の自己解放のエネルギーが抑圧され、疎外されていたことからも真に闘う労働者組織獲得のため結成されたのである。また同年五月の釜ケ崎労働者の叛乱に触発された部分(釜ケ崎では暴力手配師十建設業者「鈴木組」を労働者の団結した力で粉砕した)がいたことにもよる。

現場闘争委員会=現闘委は手はじめに大広建設(山崎班)の一条件違反なのに背後に手配師暴力団をチラつかせて脅すという対応に対して闘争を組み、違反金を克ち取った。その後、現闘委は闘いを次々と拡大、深化し、悪質手配師業者集団にその勢力を認識させ、手配師集団の反撃、パージを受けるようになるほど力を増した。現闘委の力に恐怖した手配師集団は彼らにとって"うるさい"現闘委を中心とする労働者に就労拒否攻撃を行なった。

しかし正当かつ戦闘的な労働争議闘争の末、手配師連合は崩壊し始め、労働センター(ここで業者手配師が求人する)における業者、手配師連合対労働者の関係は労働者に優位に展開してきた。このころから警察権力も激しく介入しだし、赤軍派などの過激派が煽動しているとみる警察は不当な予断をもって闘う労働者をパクっていた。ここに業者、手配師、警察三者ぐるになった反革命包囲網が成立したのである。

センターはもとより官僚的で、この三者を補完するものとしてあった朝日などのブル新も権力との密接なフレームアップにより、一連の現闘委の闘いを「過激派による活動資金かせぎのための恐喝事件」としてデッチあげた。現闘委は恒常的な警察・業者、手配師の弾圧体制を突破すべく部分叛乱として開始した現場闘争をセンター制圧(手配師、業者、警察がここに集まるため、ここを支配することは大きな意味をもつ)、警察粉砕闘争に拡大した。それで手配師連合は以前ほど大きな顔はできなくなったが、手配師、業者、警察対先進的労働者、現闘委の緊張関係は続いている。いままさに反革命包囲網を逆包囲するための革命勢力の結集が問われているのだ。

全共闘運動の解体後、現在的に新左翼諸派の活動は沈滞している彼らの運動の敗北原因の一つは学生という階級が必然的に持っている小ブルジョア性、多くは"食"の問題で悩んだことがない―に規定されるものではないか。

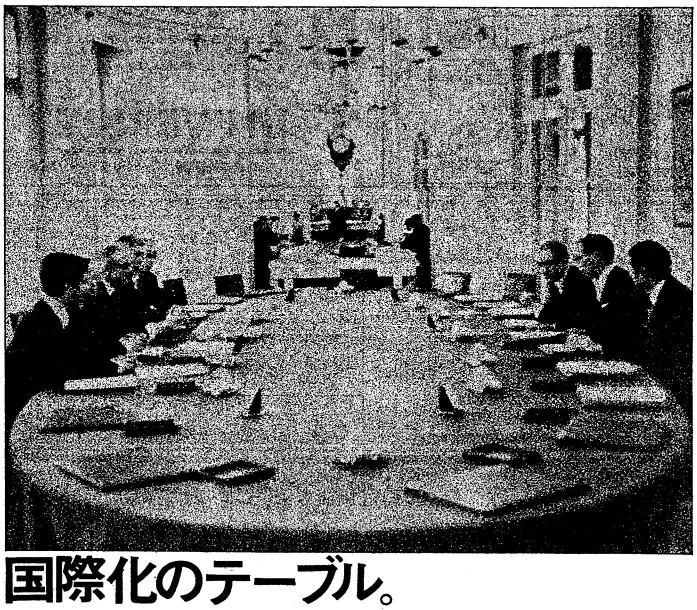
ところが山谷、釜ケ崎において階級闘争を担っている労働者は下層社会に位置している故、市民社会、支配体制からの抑圧を受けている。従って彼らは生活総体をかけて、絶えず肌で支配階級の弾圧を感じながら戦っているという点で最も革命的内実を有していると考える。

六八年山谷階級闘争昂揚時において革マル派は、下層労働者は革命的になり得ない、革命の主体は組織労働者である―と批判したが果してこれは的を得ているのであろうか。

毛沢東は言った。「革命とは暴動であり、一つの階級が他の階級を打倒する激烈な行動である。」

現在、学園で闘いを進めている学友は山谷、釜ケ崎労働者の闘いから学ぶべきである。実践的に肉体労働をし、下層労働者の抑圧を共有し、闘うべきであるが、その際、自らが学生であるという主体を消し去ってはならない。つまり短絡に山谷労働者の闘いに依拠することなく、闘いの成果を持ち帰り、止揚していくべきである。

Financier over the World ❶



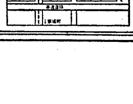
国際化のテーブル。

日本とヨーロッパの金融界のリーダーがテーブルをかこんだこの日、新日本証券は、みずからの手で新しい1ページをひらきました。ECSC(欧州石炭鉄鋼共同体)※が発行する6000万フランの債券引受けに、わが社はフランス3大国有化銀行のひとつソシエテ・ジェネラールとともに、主幹事をつとめたのです。
超一流の国際機関であるECSCの引受け幹事をつとめたことは、わが社にとって画期的なできごとでした。
金融市場の国際化が急ピッチに進むなかで、わが社の着実な歩みが高く評価された象徴的なニュースといえるでしょう。

※1952年発効のパリ条約により設立。EEC(欧州経済共同体)、EURATOM(欧州原子力共同体)とともに、ECを構成するヨーロッパでの代表的な国際機関のひとつ。加盟国は9カ国。

新日本証券
東京都中央区日本橋江戸橋1-5-2 〒103
人事部人事班 Tel(03)273-2311

会社概要
資本金 70億円
従業員 4800名
営業網 全国68都市
海外拠点 ロンドン、ロサンゼルス、ニューヨーク
代表者 取締役社長 鷹尾 寛



NEWS DIGEST

四証券など上場へ
東証・大証に五月から

東京証券取引所は三十日、新日本証券、三洋証券、和光証券、日本勧業角丸証券の証券四社の市場第二部上場を決め大蔵大臣に正式に申請した。上場予定はいずれも五月上旬で、すでに四月十日に上場が予定されている山一証券と合わせ、総合証券大手八社が全社上場されることになる。

証券界は四十年不況で手ひどい打撃を受けたが、その後株価の順調な上昇を背景に各社の財務体質の改善、強化は著しく、今度の山一証券の再上場、準大手四社の新規上場となった。総合証券八社の上場が実現することによって、四十年不況の傷あとが完全にいえたことが名実ともに示されたことになるとともに、大手四社、準大手四社という今後の証券界の体制が確立したといえる。

また大阪、名古屋両証券取引所は三洋証券、大証は新日本、日本勧業角丸、和光の三証券について同様の措置をとった。

(日本経済新聞3/31)

文芸

アバンギャルド

TVはアトムと共に去り

日本なのにアメリカみたい

映る画面はただ虚しい……

★☆　私達が、小学6年生であった昭和40年頃、アトムといえば"鉄腕アトム"を指した。

明るいテーマ曲にのって始まる土曜7時、日本中の良い子はテレビの前に within the house.

そういう私も、仮面土曜を楽しみに、マーブルチョコをかじりながら、アトムの一挙一動に　夢中になった。悪いロボットや悪魔達を少年の姿をしたスーパー・ロボットが、次々と打ちくだく。胸のすく様な想い。

☆　☆

近い未来には、アトムのようなロボットが出現し、人間と協力して悪を一掃するのだろう。バラ色の未来論をマンガで表わし、時の高度成長期、遥か一段オリンピックの世相を反映して"アトム"も勧善懲悪、まさに教育的マンガであった。

それを、私達は、7時といえばちょうど夕食時だというのに、食べるものも食べず、話すことも話さず、夢中で見入ったものである。そして、大人達はというと、子供の時間帯が過ぎると、やはりチャンネルを等しうしてに、お気に入りのTV番組を見ていた。

それから、番組も変化に富んだ"生き生きとしたもの"が多かった。

☆　☆

現在は、お化け番組「ありがとう」やその他ホームドラマ、いつも同じパターンの時代劇、これらがTV文化の担い手である。「ありがとう」の高視聴率には、当のTBSも知恵がついている。大阪在8時、全国約半数の家庭がいっせいに同じチャンネルにTV☆★を合わせる。同じ画面を同じかっこうで、同じ順で見、そして同じ時にいっせいに笑う。感覚しただけでもそら恐ろしい。

微温的のホームドラマや、仮週同じ筋の時代劇かなど多くの人々に見られるのか。刺激を求め、たえず新しい遊びに飛びつく現代人には合わぬ行為。

それは、TVが能動的娯楽としては、楽しまれていないということである。アトムに夢中になり、TVにしがみついたあの目の輝きは、もうそこには　ない。何げなく所在なげに画面を追うだけ。

☆　☆

私達はなぜTVを見るのか。答えは「他にすることがないから」。働いて体を休ませるために帰宅し、広い居住スペースがなければTVが何となく時を過ごす方法となる。

外に行くには、先立つものも　眼もなく、家にいても庭の手入れや大掃除やスポーツができるわけでもなく、社会から　隔絶された勤労大衆の、TVを見る姿がそこにある。

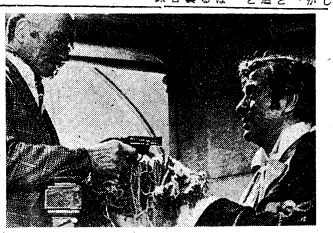
☆　☆

現代、学生（特に大学生）のTV離れがいわれているが、それは比較的識外されていない階級が学生だからである。TVが識外された大衆を映している、そんな社会に私達は生きているのだ。あのテーマ・ソングを歌っても決してアトムは現われない。出てくるのは、せいぜいウルトラマンぐらい。

文芸

探偵スルース　出演者2人のブラック・サスペンス

ステージからスクリーンへ　全世界で話題集中


"完全犯罪"にベンをかき命乞いするマイロ　―オリビエとケインー

ScREeN

DRaMa

ひとりごと

生きるってことはひとりポッチなの

読書

トイレで噂の愛の本
狐狸庵先生、女を剝ぐ
―遠藤周作・著―

ぐうたら愛情学

喫茶店のおとこ

「大学祭の世話役に」意欲をみせる委員長

忙しさを求める21才　実行委員長塚田茂男君

未知な季節への序曲
5月1日より会社訪問歓迎
（国電・地下鉄　四谷駅前　野原ビル5階受付）
建設資材と道路資材の商社として貢献する
㈱野原産業株式會社
採用関係連絡先
東京都新宿区四谷1－4（野原ビル）〒160
本社管理部人事課　TEL(03)357－1251

夏期ゼミ
7月21日～30日（申込〆切5月31日）　〈定員200名〉
★申込金2万円だけでハワイ往復。残金14万6千円（航空運賃・ホテル代・朝食代など）は帰国した翌月から毎月6千円ずつで24回払い。★参加者全員にハワイ大学総長から修了証書が授与されます。★ゼミは正午から2時間、あとは自由行動。
〈ゼミ主要講師陣〉ハワイ大学名誉総長S. SAKAMAKI博士、副総長B. GOTO博士、教授M. SHINODA博士、日本側主任教授中山茂博士、学習院大学香山健一助教授、九州産大助教授吉田福雄博士、G. ARIYOSHIハワイ州副知事、R. HIRALハワイタイムス主筆、T. KORAホノルル総領事、Y. OKIKIKUテレビプロデューサーなど多彩。
UNIVERSITY OF HAWAII
東京都渋谷区神宮前2-6-6-205　ハワイ大学夏期セミナー東京学務局（402）2255・3748

USA 留学・研修旅行・通信教育
◆バークレー英語留学（3～6カ月間）
●12週間英語集中講座　¥563,000
●24週間英語集中講座　¥793,000
●国際ビジネスマン養成英語研修講座　¥594,000
●英語教師の為の英語研修講座　¥594,000
出発　昭和48年7月2日・9月30日
◆バークレー英会話セミナー（1カ月間）
出発　昭和48年7月29日～8月26日　¥284,000
◆ミシガン大学英語留学(4カ月間)
出発　昭和48年8月30日・12月25日　¥819,000
◆ジョージタウン大学英語留学(4カ月間)
出発　昭和48年8月30日・12月25日　¥876,000
◆カリフォルニヤ大学留学(大学・大学院・博士課程)
昭和48年6月17日～8月9日　¥442,000
昭和48年8月5日～9月27日　¥442,000
昭和48年6月17日～9月27日　¥566,000
◆カリフォルニヤ州立大学英語研修講座
●英語教諭及び英語教諭候補生の為の英語研修講座
昭和48年7月22日～9月2日　¥433,000
昭和48年8月5日～9月2日　¥328,000
◆ハワイ大学英会話セミナー（1カ月間）
出発　昭和48年7月22日～8月[illegible]　¥198,000
◆ハワイ大学英語留学
昭和48年6月3日～8月26日　¥496,000
◆ハワイ大学留学(大学・大学院課程)
昭和48年6月3日～8月26日　¥376,000
カリフォルニヤ大学 通信教育（会員制）
大学課程
アメリカ個人留学
2年制短期大学・4年制大学
大学院・博士課程・職業訓練学校
(株)インターナショナル スチューデント アドバイザーズ オブ ジャパン
〒150　東京都渋谷区神宮前6-19-18　コマツビル　☎03(407)6831(代)
〒530　大阪市北区芝田町45　梅田エステートビル　☎06(373)0412(代)
●詳細案内書200円
●ローン制度有り
（土佐電トラベルサービス代理店）

SASAME
笹目でとっちゃお！
緑あふれるマンモスコース・個人指導によるゆとりある練習
本教習所の特色
●親切がモットー。一人の指導員が基本が出来るまで責任を持って個人指導します。(練習の指導員指名も出来ます)
●最新型ドライブインマスター、無線教習車、映写設備等導入で特に初心者、女性にうけてます。
●冷暖房のあるモダンな校舎と全車冷房で毎日技能教習2時限まで受けられます。
●料金は格安で入所と同時に教習が受けられます。(学生割引有り)
●教習時間は午前8時～午後8時です。
送迎バス時間表

高田馬場駅発		8.40										
目白駅発	7.50	8.50	9.50		11.50					15.50		17.50	
成増駅発	7.30	8.25	9.25	10.25		12.25	13.25	14.25	15.25	16.25	17.25	18.25
高島平駅発		8.30	9.30	10.30		12.30	13.30		15.30		17.30	18.30

●目白駅より40分　●送迎バスは学をあげればどこでもとまります。　●但し：最終送り赤帆バスあり
公安委員会指定・実地試験免除（大型・大型特殊・普通・自動二輪）
★お問合わせ　高田馬場サービスセンター　☎(200)0955
公認 笹目自動車教習所　埼玉県戸田市下笹目4666新笹目橋　☎(0484)(21)2200(代)